# 第 15 5 回 IEC 活動推進委員会 運営委員会 2006.4.18 国際会議補助報告書

資料 No.	<sc3d関係>国際会議報告書</sc3d関係>
155-3 / SC3D -	SC3D / WG2「電子部品のデータ要素 / 辞書データモデリング」アイトホーヘン会議報告書
	20060206 - 20060208
資料 No.	<tc62関係>国際会議報告書</tc62関係>
155-3 / TC62 <b>-</b>	SC62A / WG20「医用電子機器共通事項/環境保護」ボストン会議報告書 200600213 -
	20060215
155-3 / TC62 <b>-</b>	SC62D / MT22「医用電子機器 / 診断・生体情報モタ機器」フランクフルト会議報告書 20060321
<mark>欠番</mark> (同 TC62- )	- 20060323
155-3 / TC62 <b>-</b>	SC62A / JWG4「医用電子機器共通事項 / ユーザビリティ」アテネ会議報告書 20060124 -
	20060127
155-3 / TC62-	SC62A / MT23「医用電子機器共通事項 / EMC」マイアミ会議報告書 20060207 - 20060210
155-3 / TC62-	SC62D / MT22「医用電子機器 / 診断機器とモニタ」フランクフルト会議報告書 20060321 -
	20060323
資料 No.	<tc80関係>国際会議報告書</tc80関係>
155-3 / TC80 <b>-</b>	TC80 / WG13「舶用電子航法装置 / 航法関連情報表示」ワシントン DC 会議報告書 20060207
	- 20060209
155-3 / TC80-	TC80/WG14「舶用電子航法装置/基地局(航法支援 AIS)」東京会議会議報告書 20060220
	- 20060224
資料 No.	<tc47関係>国際会議報告書</tc47関係>
155-3 / TC47 <b>-</b>	TC47 / PT62258「半導体デバイス / 半導体ベアダイプロジェクト」ロンドン会議報告書
	20050705 - 20050706
155-3 / TC47 <b>-</b>	TC47 / PT62258「半導体デバイス / 半導体ベアダイプロジェクト」ブリュセル会議報告書
	20060130 - 20060131
155-3 / TC47- <b>-</b>	TC47/WG5「半導体デバイス/故障メカニズム」ゲイサンズバーグ会議報告書 20060223 -
	20060223
155-3 / TC47- <b>-</b>	SC47E / WG3「個別半導体 / パワーデバイス」ニュールンベルグ会議報告書 20060313 -
	20060314
資料 No.	<cispr i="" 関係="">国際会議報告書</cispr>
155-3 / CISPR <b>-</b> I	CISPR / I / WGs「受信機、AV 関連機器及びマルチメディア機器に関する EMC」サンタフェ
-	会議報告書 20060130 - 20060203

様式 4

提出日: 2006年2月18日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 南野 典子 報告書作成者氏名: 村山 廣 (会社名)(株)東芝

会議名(半角)	区分		組織番	SC3D (半角)	
SC3D/WG2	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	(TC/SC/TA)	3030 (年用)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	電子部品のデータ要素	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	电」 品品 グランタ系	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年2月6日 ~ 2006年2月8日				
開催場所	(国名) オランダ (都市名) アイントホーヘン				
チェアマン / コンベ ナ	onald Radley(英)/Addie Dijkstra(蘭) 幹事国 オランダ				
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 蘭、英、独、日、参加人数(10)				
日 本 人	[ :補助対象者・・・ (例): 電子太郎(JEITA 電子) ]				
出席者名(会社名)	村山廣(東芝)				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

【背景・目的】欧米及び日本における電子カタログ辞書データモデルとして広く参照されている国際標準(IEC61360 シリーズ)について審議を行う。今回は、現在 Edition2 を開発中の ISO13584-42 (以下 ISO13584-42Ed2 ) とデータ モデルを共有する IEC61360-2 の改定、およびその IEC 辞書向けの仕様の特殊化を扱う IEC61360-1 の改定とスケジ ュール、今後の辞書モデリングの方法、IEC-TC40 とのリエゾン設立と VG への参加、IEC-SC65B から提案されてい る辞書についての検討を行った。報告者は、SC3D 国内委員会の代表、および SC3D がリエゾンを組む ISO-TC184/SC4 からのリエゾンとして参加。

## 【成果・問題点】

- 1.辞書モデルの改訂: ISO-TC184/SC4/WG2 において ISO13584-42Ed2CD (IEC では CDV に相当 ) に対しては、 実用化で先行する日本とドイツから重大な技術コメント(日本から約 60 件、ドイツ約 40 件)を含む反対投票があり、 SC4 の事務局は CD2 の作成を推奨し、妥協が成立しても現内容がそのまま DIS に進むことは困難であることを当方か ら説明した。またプロパティの値域制限に関する日本からの対案を示した。限られた時間中に現提案の技術的問題の深 刻さは理解を得たが、日本からの対案の積極支持までには至らなかった。本件はイタリアで開催される ISO-TC184/SC4 会議における結論を待ち、SC3D における IEC61360-1、2の審議日程としては、本年 6 月以降ということになった。
- 2 . 辞書モデリングの方法 : 村山が指摘した ISO 側と IEC 側で Visible Property と Applicable Property の意味解釈の 相違について、今後、IEC も ISO 側に合わせるべきか否かを検討を行った。 また他分野の辞書を IEC SC3D に追加す る場合の方法、即ち、単純木を維持するか「林」かを検討した。両件とも結論には至らず継続審議事項とした。
- 3 . TC40の幹事 Paul Friedrich 氏が参加して TC40 (Capacitors & Registors for electronic equipment ) とのリエ ゾンの件、および IEC61360-Database Procedure に関する VG ( Validation Group ) への参加要請について検討した。 Paul Friedrich 氏は、実際に TC40 内での IEC61360 についての関心の有無を心配し、特に日本・韓国のエキスパート の協力を懸念していた。このため、当方から JEITA/ECALS の活動を紹介し、SC3D のメンバーであり TC40 にも関わ る田中文雄氏(松下電器)をコンタクト先として紹介した。
- 4.ドイツの工業会 NAMUR から5名が参加し、SC65Bからの辞書提案について検討した。内容は2つあり、1つは 既に辞書内容が提供されている「環境」辞書であり、他方は所謂計測器の本来のプロパティの提案である。前者は、「計 測器の設置・動作環境」という意味の環境であり、所謂、IEC-TC111 を中心に検討されている「環境」とは異なるが、 境界領域もあり注意が必要。後者は、まだ開発が端緒についたばかりという印象であった。

次回は、5月にロンドンで開催予定。

以上

運営委員会・資料番号: 155-3 / TC62-

(事 様式 4

IEC 活動推進委員会 御中

提出日: 2006年3月22日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 萩原敏彦 報告書作成者氏名: 市川義人 (会社名)オリンパス(株)

会議名(半角)	区分		組織番	SC62A/WG20 (半角)	
SC62A/WG20	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	(TC/SC/TA)	30027(11020 (丰用)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	環境保護	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	场·兄 /不 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年2月13日 ~ 2006年2月15日				
開催場所	(国名)米国 (都市名)ボストン				
チェアマン / コンヘ・ナ	Dr. Freimut Schroder 幹事国 米国				
参加国及び 参加人数	4ヶ国、主な国名 ドイツ、イギリス、米国、日本、参加人数(6)				
日 本 人	[ :補助対象者・・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会社名)	萩原敏彦、 市川義人				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

### 背景と目的:

IEC 60601-1-9 (環境保護)規格案 (CD2)の各国コメントの国際審議と CDV への方向付けに参加する。この規格は IEC 60601-1 (医用電気機器)親規格の第3版案から独立し副通則となった。医用機器のライフサイクルにおける環境保護に対する要求事項を定める非常に重要な規格であり、各企業の製品開発への影響と、自然環境の保護という重要な 意義を持ったものであり、経済のみならずさまざまな分野への影響が懸念される。将来的な JIS 化もにらみ初期段階から日本の考えを反映する必要があり参加した。

### 成果:

- ・165項目の各国コメントの審議及び方向付けを完了し規格への反映方法を決定した。
- ・日本コメント 36/165 のうち6件はリジェクトされたがのこり30件はほとんどがアクセプトされた(部分的に受け入れられたものも含む)
- ・最も大きな変更は、規格のタイトルが、Requirement for the environmental impacts から Requirement for environmental conscious design に変更された。
- ・ANNEX の開発ライフサイクルの用語が各社違う(サイクルも微妙に違う)ため今回もかなり議論がなされたが、日本意見で、表題に typical の代わりに sample という文字を入れ、より参考という意味が強くなるようにできた。
- ・3月末までに規格に各項目を反映してIECセントラルオフィスに送付し、5月末までにフランス語訳を完成する。
- ・CDV の発行は6月を目標にする事が決定された。

### 今後の予定:

・2006 年 12 月にエアランゲンで CDV の国際審議結果に対する方向付けの打ち合わせを実施する。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WG がTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG 会議内容はTC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

運営委員会·資料番号: 155-3 / TC62-

(事務局 様式 4

記入)

IEC 活動推進委員会 御中

提出日: 2006年3月31日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 萩原敏彦 報告書作成者氏名: 萩原敏彦 (会社名)オリンパス(株)

会議名(半角)	区分		4口/址 <del>来</del>	
JWG4	□TC □SC □TA ⊠WG □PT	□その他	組織番 (TC/SC/TA)	62A JWG4 (半角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□ その他	名 称 (日本語)	共通事項:ユーザビリティ
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年1月24日 ~ 2006年1月27日			
開催場所	(国名) ギリシャ	(都市名	) アテネ	
チェアマン / コンヘ・ナ	アメリカ	幹事国	アメリカ	
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 アメリカ、カナダ、イギ	リス、ドイ	イツ、日本代	也、参加人数(12)
日本人出席者名(会社名)	[ :補助対象者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子)] 萩原敏彦	l		

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

1. 背景と目的

現在、医療現場で発生している医療事故の殆どはヒューマンエラーと言ってよいだろう。そのエラーを減少させるための医用電気機器のユーザビリティ規格 IEC 60601-1-6 が発行された。その後、ISO/TC210(品質管理)から、医用電気機器でなく"医療機器"のユーザビリティの規格をジョイント WG で作りたいとの申し出があった。今回は、その共同作業班 JWG4 で作成した IEC 62366 案 (第2CD)に対する各国意見を審議して、CDV の素案を作成する。

### 2. 成果

全コメントの審議をし、さらにそれらを基に CDV 案の原型を作成した。

この規格案の要求事項は、ほんの4頁である。しかし、ユーザビリティのタイトルに反して、極めて理解しにくい規格である。具体的には、4個の Clause 及び7個の第1階層の sub-clause で構成された CD 案を、ユーザビリティの作業に沿って論理的に、かつ、分かりやすいように大幅な変更をした。4.原理、5.ユーザビリティエンジェニアリングプロセス、6.附属文書及び表示、7.教育及び教育材料の構成とした。

### 3. 問題点

全体的には、ユーザビリティの作業プロセスに合わせた構成とすることができた。しかし、これらの要求事項を読んだだけで特定の製品い関して、目標とするユーザビリティに到達させることはきわめて困難と思われる。人間の理解しやすさ、行動の傾向性、満足度という抽象的な表現と尺度に頼らざるを得ない分野の規格ということを考慮すると、尾のずと限界がある。今後、規格化され、多くの製造業者がこの規格を使う中で、改善が行われて、使いやすい規格になってゆくと思われる。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

運営委員会·資料番号: 155-3 / TC62- (事務局記入)

提出日: 2006年3月31日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 萩原敏彦 報告書作成者氏名: 萩原敏彦 (会社名)オリンパス(株)

会議名(半角)	区分		/口/ <u>小</u>			
IEC/SC62A MT23	□TC □SC □TA □WG □PT	⊠その他	組織番 (TC/SC/TA)	62A MT23 (半角)		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	<ul><li>□ その他</li></ul>	名 称 (日本語)	共通事項:EMC		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT					
開催期日	2006年2月7日 ~ 2006年2月10日					
開催場所	(国名)アメリカ	(国名)アメリカ (都市名)マイアミ (Fort Lauderdale)				
チェアマン / コンヘ・ナ	アメリカ	幹事国	アメリカ			
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 米、ドイツ、スウェーデ	゛ン、デン <sup>、</sup>	マーク、日本	太参加人数(15)		
日本人出席者名(会社名)	[ :補助対象者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子) 萩原敏彦、中田和成	]				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

1. 背景と目的

医用電気機器の安全通則 IEC 60601-1 の第3版が、昨年末に発行された。

この副通則である EMC 規格 IEC 60601-1-2 は親規格に合わせて、安全だけに限定した規格とすべきであり、その他の要求事項は、性能の EMC 規格として別途制定すべきだという提案(62A/509/DC)に対する各国意見を審議する。

### 2. 成果

この提案(62A/509/CD)に従って、IEC 60601-1 の第 4 版は安全に限定した規格とし、別途性能の EMC 規格とすることが方向付けされた。。

EMC の用語の定義が"・...満足に機能するための能力 "であって安全を含んでいないので 2 分割した規格化を進めるべきだという意見具申を ACEC にしたとこと、そのとおりであるという回答を得たことに端を発している。( 聞き方にも問題があっと私は考えている。)

日本としては、EMC 規格が 2 分割されることによって、複雑化して使いにくくなるので反対の意見を述べたが、採用されなかった。

なお、それらの両規格を並行して立案・審議し、使いやすく、重複がなく簡素な規格化を進めることを提案した。 その他、安全のために放射電磁界のイミュニティの周波数の上限値を現在の 2.5 GHz から 10 GHz にすべきだとの意見 も出たが、あまりにも早急すぎで、今後状況を見ながら検討してゆくことになった。

### 3. 問題点

使いやすい規格をつくるということを考えない人たちが多すぎる。いわゆる規格屋さん的意見が多い。 多数決で2つの規格化にすることが決まった以上、日本としては、使いやすく簡素な規格にするべく努力してゆくこと が重要である。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[<u>6週間以内]</u>に <u>TC/SC/TA 担当委員経由</u>で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(事務局記入)

様式 4

提出日: 2006年4月3日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 内藤 正章 報告書作成者氏名: 乾清、中谷敬 (会社名) フクダ電子、日本光電

会議名(半角)	区分		組織番	MT22 (半角)
62D	□TC □SC □TA □WG □PT	⊠その他	(TC/SC/TA)	IVI I 22 (丰用)
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	名 称	医用電子機器
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	(日本語)	(診断機器とモニタ)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年3月21	日 ~ 2	2006年3月	月 23 日
開催場所	(国名)ドイツ (都市名)フランクフルト			
チェアマン / コンベナ	Klaus Neuder	幹事国	ドイツ	
参加国及び 参加人数				
日 本 人	本 人 [ :補助対象者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会社名)	中谷 敬 [日本光電工業株] 乾 清 [フクタ	<b>『電子(株)] (</b> 注	主: 人事異動に	(学い、二神より中谷に委員交代)

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

1 日的

IEC60601-1 第3版の正式発行(2005年 12月)に伴い、SC62DMT22が担当する次の個別規格を、改訂第3版と整合性をとるために改定する。今回はその原案審議の第2回目の会合である。

- 2. 討議内容
- 2.1 IEC60601-2-25(心電計)の審議

日本の心電計 JIS 原案作成 WG で、IEC60601-2-25 のレビューにて挙がった項目について質問・指摘を行い、これに基づいて一部原案修正がなされた。

2.2 IEC60601-2-27(心電図モニタ)の審議

前回討議の IEC60601-2-27 原案にアラームに関する内容が追加され、その部分の審議を行なった。主に副通則 IEC60601-1-8 の内容を取り入れたものである。

2.3 その他

前回および今回審議できなかった規格については、各担当(Project Leader)が作成した改定原案について、主査を中心にしてメールでやり取りし、CD を作成する。大きな内容改定ではないので、会合を開く必要な無い。

- 3. 原案作成担当 (Project Leader)の一部変更
- (1) IEC60601-2-23(経皮ガス分圧モニタ)、IEC60601-3-1 (IEC60601-2-23 に統合)、IEC60601-2-26(脳波計)は、担当者 が転職し連絡不能のため、これら規格の改定原案作成は、主査の Klaus Neuder が担当する。
- (2) IEC60601-2-30(非観血血圧モニタ)の改定は、JWG7:IEC/SC62D ISO/TC121/SC3 の成果物を使用する。しかし、 改定の責任は MT22 にあることから、内容確認を主査の Klaus が行なう。
- 今後のスケジュール(主要作業)
- (1) 2006-12 IEC 62D/MT22 での校正作業
- (2) 2007-01 ナショナルコミッティーへの CD 配布 ( コメント期間 2 ヶ月 )
- (3) 2007-05 IEC 62D/MT22 の全体ミーティング ( CD に対するコメント審議、必要に応じ 6 月も開催 )
- (4) 2007-12 CDV の配布 (コメント 5 ヶ月間)
- (5) 2008-09 IEC 62D/MT22 の全体ミーティング (CDV に対するコメント審議)
- (6) 2009-01 FDIS 発行 (コメント2ヶ月間)
- (7) 2009-06 IEC 62D/MT22 の全体ミーティング (FDIS に対するコメント審議) 009-08
- (7) 2003-00 TEC 02D/MT22 00至体に フィファ (TDIS に対するコハント番級)003-06 (8) 各規格の発行

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(TSC-06 新版 e 様式)

以上

(事務局記入)

様式 4

提出日: 2006年2月27日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 矢内 崇雅 (会社名)沖電気工業(株)

会議名(半角)	区分		組織番	TC80 (半角)	
TC80/WG13	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	(TC/SC/TA)	1000 (丰用)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	航法関連情報表示	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	がない。	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年2月7日~ 2006年2月9日			月9日	
開催場所	(国名)米国 (都市名)ワシントンDC			ンDC	
チェアマン / コンヘ・ナ	Kim Fisher/Joe Ryan 幹事国 UK				
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、UK、ロシア、ノルウェー、参加人数(13)				
日 本 人	[ :補助対象者・・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会社名)	矢内 崇雅(沖電気工業)、 田北 順二(日本第	無線)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

舶用航海機器に関する IMO (国際海事機関) の性能要件や各機器の IEC 国際規格に於ける表示、IHO (国際水路機構)及び ISO (国際標準協会)にて規定されている航法関連情報表示における不整合による航海関係者の混乱を調整、解決をする目的で、本 IEC TC80 WG13 が設立され、IEC62288 としての IS を開発することになった。

### 2. 目的

2006 年第一四半期での CDV 回章を目指して、2006 年 1 月 17 日から行われた WG1、WG7 及び WG13 主要メンバにおける合同 WG 会議結果を受けて IEC62288 としての CDV 回章に必要な AI 項目の解決に向けた作業を推進し、IEC 事務局が要求する CDV 回章期日と内容の精緻化を行う。

### 3 成果等

- 1)2006年1月に行われたWG13、WG1及びWG7での合同会議でのWG13にて解決すべき内容の報告がされ、本 IEC62288 は IEC62388 等の規格との関連性が強いため、試験要件の結果要求の Complianance を Master Document とするか他の Master Document を参照するかにより、Comfirm か Verify とするかで記述を行うことで統一が図られ、IEC62288の修正が必要となったことの内容と関連作業報告がなされた。
- 2) IEC62288 の CDV 案作成に解決すべき AI 項目として 75 項目が確認され、今回の会議期間中に結論を出す必要から検討グループ、現実は個人から数名のグループでの担当を決めて AI の解決を図った。
- 3) USCG にて検討されている "Composite Target" なる概念の表示方式を本 IEC62288 への盛り込みの提案があり、これまでの IMO 文書での方向、WG1 でのレーダ運用に関連した表示方式への新たな検討課題であり、又表示そのものがレーダ検出での表示と AIS データからの表示とを混ぜ合わせたもので、表示そのものが紛らわしいとの反対意見もされた。何故今の時期に今更との感じであるが、USCG としては提案を Option でも盛り込みたい意向を強く出している。
- 4)IEC62288の開発期間の長さ及び関連する CD である IEC62388、レーダ装置他の CDV 回章期限が迫っていることから、IEC 事務局からは 2006 年 3 月末までに IEC62288CD を仕上げる様、強い圧力がかけられた。
- 6) 現状の CD 内容でメールベースでの精緻化は困難との考えで、第15回の会議開催を計画したが、WG13の参加している委員のスケジュール等を考慮して、2006年3月のWG1との歩調を合わせた日程と場所を設定した。

### 4 次回の予定

第15回 2006年3月13日(月)~15日(水) 英国 ロンドン BSI

運営委員会・資料番号: 155 - 3 / TC80- - (事務局記入)

様式 4

提出日: 2006年3月3日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 矢内 崇雅 報告書作成者氏名: 矢内 崇雅 (会社名)沖電気工業(株)

会議名(半角)	区分		組織番	TC80 (半角)
TC80/WG14	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)	1 000 (+ /4)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	基地局 / 航法支援 AIS
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	全记时,则(/A 文)及 AIO
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年2月20日 ~ 2006年2月24日			
開催場所	(国名)日本 (都市名)東京 JEITA			
チェアマン / コンヘ・ナ	Alan Stewart	幹事国	UK	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、UK、米国、ロシス	ア、ドイツ	、スウェー	デン、参加人数 (22)
日 本 人	[ :補助対象者・・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会社名)	古山 賢二(日本無線)、矢内 崇雅(沖電気工業)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)にの欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

### 1 概要

AIS の基本的な要件は船舶 船舶、船舶 陸上局間でデータ通信が出来ることで規定されており、SOLAS 対船舶に搭載される AIS 装置は既に IEC 規格が制定された。一方 AIS としての分類にて陸上局及び航路標識用の AIS の IEC 規格を作成し、AIS 全体としての整合の取れた運用が望まれている。

### 2. 目的

第 9 回パリ サンジェルマン会議にて検討、定義されたタイプ 1~3 とそれぞれのタイプに対応した Default/Variant に従った機能・性能要件の精緻化及びテスト要件のドキュメント化を推進し、目標の 2006 年 5 月 CDV 回章を目指す。

- 3. 成果・問題点
- 3.1 久しぶりの日本開催であることからと WG14 メンバーの強い希望もあって、AIS の運用、研究及び製造等を担当している海上保安庁、東京海洋大学及び日本無線(株)等によるプレゼンテェーションを実施した。
- 3.2 AIS を用いた海上交通管制を実施している観音崎の"東京湾海上交通センター"への見学を実施し、日本での AIS 利用による交通管制の実施状況とシステム構築状況を説明し、日本の地位向上に寄与した。。
- 3.3 ドキュメントの開発に当たって、これまでの検討事項及び関係者からのコメントに基づいて "Configuration" と"Requirement"に区分をしてそれぞれに対してサブグループを設定して解決を図った。
- 3.4 サブグループでの検討結果を IEC62320-2 AtoN AIS のドキュメント反映を全体会議にて盛り込みを行い、機能・性能要件とテスト要件の一部に関してはほぼ完了した。今後は残りのテスト要件及び Annex 部分の管制を目指すことになった。又、前回会議にて規定した Type 区分とそれぞれの Type での Default/Variant についての定義を更に明確にして、考え方は変更せずに規格化を図ることで合意された。
- 3.5 今回会議での目標である次回会議での IEC62320-2 CD 案を完成させるまでのレベルに到達できなかった事から、CDV までに3回の会議予定を設定した。
- 4. 今後の会合予定

第 11 回 2006 年 4 月 24 日 ~ 4 月 28 日 ドイツ コブレンツ・・IEC62320-2 航路標識 AIS の CD 案の作成 第 12 回 2006 年 6 月 9 日 ~ 6 月 13 日 パリ サンジェルマン・・IEC62320-1 基地局 AIS Resolutio と IEC62320-2 航路標識 AIS の CD 案の作成

第 14 回 2006 年 8 月 21 日 ~ 25 日 カナダ セントジョーンズまたはロシア セントピータスバーグ・・C D V案の作成

- [注]: 1. 該当者は、出席会議終了後[<u>6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由</u>で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WG がTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG 会議内容はTC/SC 報告に含めて報告書を提出して下され。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会・資料番号: 155-3 / TC80- つづき-(事務局記入) 様式 9

提出日: 2006年3月20日

# IEC 国際会議日本開催 経費収支報告書

1.	組	織:	番号	弓	TC80/WG14
----	---	----	----	---	-----------

名 称(日本語) 固定局/航法支援 AIS

2. 会 議 名: TC80/WG14(∑単独開催 □同時開催)

□TC □SC □TA 図WG □PT □その他

3. 開催期日: 2006年2月20日~2006年2月24日

4. 開 催 場 所: 東京 JEITA 会議室

単位:円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
JEITA 活動推進委員会補助	285229 円	会議室資料	259875 円
航法システム標準化委員会	427844 円	会議費	196350 円
	円	<b>懇親会費</b>	151998 円
	円	見学会(バスチャーター代)	104850 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
計	713073 円	計	713073 円

補助限度額: [会議出席者数(日本人登録メンバー2人+外国人10人)] ×会議開催日数5日×1.5万円=90円

以上の通り報告致します。

2006年3月20日

申請責任者: 古山賢二

運営委員会・資料番号: 155-3 / TC47-

(事務局記入)

様式 4

提出日: 2006年3月27日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 田中政樹 報告書作成者氏名: 永広祐一 (会社名)(株)東芝

会議名(半角)	区分	組織番	TC47 (半角)
TC47/PT62258	□TC □SC □TA □WG ☒PT	□その他 (TC/SC/TA)	1647 (羊用)
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他 名 称	半導体ベアダイプロジェクト
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他 (日本語)	十等体 ワットプロフェット
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他 □単	独開催 □同時開催
開催期日	2005年7月5	日 ~ 2005年7	月 6 日
開催場所	(国名) イギリス (都市名) ロンドン		
チェアマン / コンベナ	米国	幹事国 米国	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 イギリス、米国、ドイツ	/、日本、参加人数(	9)
日 本 人	[ :補助対象者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子)	]	
出席者名(会社名)	永広祐一 ((株)東芝)		

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

背景;ベアダイに関するIEC規格を作成するプロジェクトチームが2001年1月に承認され、欧州のベアダイ仕様ES59008をベースに米国/日本の意見を取り入れる形で国際版ドラフトを作成中である。

目的 ; 規格の目的はベアダイを調達する際にダイサプライヤーとダイユーザーの間でどのようなデーターをどのような形式で交換するかを示したもので、最低要求事項を定義している。

成果;規格の構成は7つのパートに分かれており、規格化する用語の定義、取り交わしのデーター形式、シミュレーションに関する入力情報に加え、テクニカルレポートとしてのダイのハンドリング/保管、質問表で構成されている。

今回は最初に、パート2;取り交わしのデーター形式、パート3;(ベアダイの)取り扱い/包装/保存の上手な実践のための推奨条件が05年6月13日に、各々IS(値段CHF119.00)/TR(値段CHF149.00)という形で無事発行されたとの報告がありました。また、パート1;(ベアダイの)調達と使用のための必要条件のIS化は、全体の文章の構成(ぶら下がり方)に問題があるとして、IEC事務局にて編集しており、発行は05年8月30日の予定。今回の主なPT内の議論は、パート5;電気的シミュレーションに関しての(入力)情報の必要条件/パート6;熱的シミュレーションに関しての(入力)情報の必要条件の各々について、05年5月27日にクローズしたCDコメント投票の結果を踏まえてCDV案として完成させました。技術的な内容の再確認と文章の工夫までを全て行いCDVとして05年8月26日に Circulation を予定してます。また、パート7;取り交わしデーターの図形形成(XMLスキーマー)については最初のワーキングドラフトを検討しました。

問題点;今回、大きな問題点は有りませんでした。

務局記入) 様式 4

提出日: 2006年3月27日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 田中政樹 報告書作成者氏名: 永広祐一 (会社名)(株)東芝

会議名(半角)	区分		組織番	TC47 (半角)
TC47/PT62258	□TC □SC □TA □WG ☑PT	□その他	(TC/SC/TA)	1047 (丰用)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	半導体ベアダイプロジェクト
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	十等体・グラープログェクト
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催
開催期日	2006年1月30	)日~ 2	2006年 1	月 31 日
開催場所	(国名) ベルギー (都市名) ブリュッセル			セル
チェアマン / コンベナ	米国 幹事国 米国			
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 イギリス、米国、ドイツ	八、日本、参	参加人数(9	)
日 本 人	[ :補助対象者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子)	]		
出席者名(会社名)	永広祐一 ((株)東芝)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

背景;ベアダイに関するIEC規格を作成するプロジェクトチームが2001年1月に承認され、欧州のベアダイ仕様ES59008をベースに米国/日本の意見を取り入れる形で国際版ドラフトを作成中である。

目的 ; 規格の目的はベアダイを調達する際にダイサプライヤーとダイユーザーの間でどのようなデーターをどのような形式で交換するかを示したもので、最低要求事項を定義している。

成果;規格の構成は7つのパートに分かれており、規格化する用語の定義、取り交わしのデーター形式、シミュレーションに関する入力情報に加え、テクニカルレポートとしてのダイのハンドリング/保管、質問表で構成されている。今回は、パート5;電気的シミュレーションに関しての(入力)情報の必要条件/パート6;熱的シミュレーションに関しての(入力)情報の必要条件ついて、CDV投票(06年1月27日クローズ)のコメントにつき、内容を検討しました。指摘事項が技術的な内容ではなかったため、投票コメントを受け入れる形で文章を修正していき両ドラフトに反映しました。内容的に問題はなさそうなので、このままFDISに移行します。

問題点;また、パート4の(メーカーへの)質問表という名のTRについてですが、そのパートの CD コメント投票 そのものは05年3月25日に一旦クローズしていますが、その後、米国DPC(ベアダイの業界団体)、JEDEC、BSI、IEC-TC40/56/101に対してリエゾンとして回っており、その結果が今回示されました。しかしそこにはかつてPT内でCDを作る際に議論を重ね、その結果として落とした項目である Quality level の記載、Failure analysis の義務、(Tolerance の詳細記述)などの重要事項について、復活提案がなされていました。今回、再びPTでCDV案を作る際に、かつて一旦落とした項目をCD投票後に復活させることについては問題はないのかとの1つの疑問を提示して、PT作業の中ではこれらの内容取り込みについて反対意見に回りました。ただし、反対したのはJEITA(日本)だけです。一番の問題は、今回の議論がPT内の議論の結果というよりも、欧州/米国でのリエゾン結果を反映したものという形になっており、欧米側の強い意見と位置づけられる事です。IECの規則では CDV の Circulation 期間は5ヶ月間は必要なのでまだ時間はありますが、今後もJEITA内で十分に意見を調整していき意見をまとめたいと思います。

運営委員会・資料番号: 155-3 / TC47 - (事務局記

様式 4

λ)

IEC 活動推進委員会 御中

提出日: 2006年3月2日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 田中 政樹 報告書作成者氏名: 松山英也 (会社名)富士通

会議名(半角)	区分		組織番	TC47/WG5 (半角)	
TC47/WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	   故障メカニズム委員会	
	⊠TC □SC □TA □WG □PT	□その他	(日本語)		
	⊠TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催 □同時開催	
開催期日	2006年2月23日 ~ 2006年2月23日				
開催場所	(国名)アメリカ (都市名		) ゲイザーズバーグ		
チェアマン / コンヘ・ナ	オランダ	オランダ			
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 日本、アメリカ、参加人数(6)				
日本人	[ :補助対象者・・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会社名)	若井伸之(東芝)、松山英也(富士通)				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

ゲート酸化膜の経時絶縁破壊試験 (TDDB 試験)方法の評価 STD を 2001 Oct に日本から提案した。(IEC 62374 Ed.1: Time Dependent Dielectric Breakdown Test(TDDB)。昨年 12/2 に CDV の circulation が終了し Voting の結果は appoved。(Voting 結果概要: P-member 9/15 APPROVED)この結果を受け、FDIS 化のための審議を行うため、アメリカ メリーランド州ゲイザーズバーグで WG5 meeting 開催した。参加者は US の John Suehle (NIST, TDDB, BEOL-TDDB)Harry Schafft (NIST, electromigration, stress voiding)Ken KcGhee (JEDEC representative)Giuseppe Larosa (電話会議による参加) (IBM, hot-carrier, mobile ion) 日本は若井、松山 TC47/WG5 国際委員。ドイツとイギリス、中国、アメリカ、日本のコメントを審議し、FDIS 化の承認を得た。4/E までに FDIS を提出することに決まった。

E Mは JEDEC で新規準備中の規格 JESD202 のドラフト内容を考慮の上、標準試験方法の CD 案を日本側が準備する。現 NP 文書からは主に、スコープ、テストパターン、故障判定と寿命推定手順についてまとめ、次回 WG5 国際会議に具体的な中身を議論していくこととした。

ストレスボイド(SM)は現 NP が外観検査的な測定要素が入っているのに対して抵抗測定による電気的な判断に内容の方針を変えることを合意。JEDEC 規格 JEP139 および JP001 を参照して、CD 案を日本が作成し、次回 WG 5 国際会議にて中身を議論していくこととなった。

BTS は NBTI との区別がつけにくい内容になっていることから、IonicContaminationMobieIonTest とタイトルを変えて、ゲート酸化膜厚に区別をつけない内容の CD 案を日本が作成することとした。

BEOL-TDDB は、具体的な Draft 案となる規格が JEITA/JEDEC とも進ん でいないため、次回国際会議で NP 方針を再度検討する。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WG がTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG 会議内容はTC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(事務局記入)

様式 4

提出日: 2006年4月7日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 赤羽根 克巴 報告書作成者氏名: 古賀 健司 (会社名)(株)日立製作所

会議名(半角)	区分		組織番	SC47EWG3 (半角)	
SC47E/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	(TC/SC/TA)		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	  個別半導体、パワーデバイス	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	個別千等件、パクーナバース	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	:開催 □同時開催	
開催期日	2006年3月13日 ~ 2006年3月14日				
開催場所	(国名)ドイツ	(都市名)ニュルンベルグ			
チェアマン / コンベ ナ	古賀 健司(SC47E/WG3)	韓国(SC47	7E)		
参加国及び 参加人数	3ヶ国、主な国名 ドイツ、UK、日本、参加人数(8)				
日 本 人	[ :補助対象者・・・ (例 ): 電子太郎(JEITA電子) ]				
出席者名(会社名) 古賀健司(日立)、由宇義珍(三菱)、宮下秀仁(富士)					

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

背景・目的: 47E/282/CDV(60747-9Ed.2)の各国コメントに対する討議。調整(observation の原案)

2005.11 の東京会議で再 MCR 設定となった 60747-7.8Ed.3 の日程調整

現在 JEC で規格作成中のパワーモジュールの紹介

### 成果と課題:

(1)47E/282/CDV(60747-9Ed.2)の各国コメントに対する討議

47E/282/CDV(回覧:2005.7.15,  $\neq$  切:2005.11.11)に対する各国投票結果は 10  $\neq$ 国の P メンバ中賛成 9  $\neq$ 国、反対 1  $\neq$ 国(UK)でありルール上は成立できるが、UK のコメントが多数(43 コメント)あったため、充分な議論を尽くして各国の理解を得て調整することにした。

特に UK が主張していた、60050-521(International Electrotechnical Vocabulary - Part 521: Semiconductor devices and integrated circuits)で定義されている項目については外すべきとの意見に対し、日本、ドイツは実用的活用を考慮すべきとの意見を述べ、結局 60747-9 に各定義を載せると同時に 60050-521 で定義されている番号も載せることで合意を得た。

(2)60747-7(Bipolar Transistor),60747-8(Field Effect Transistor)

2005.11 東京会議で再 MCR 設定となったためスケジュールの確認を行った。

その結果、両者共 CD:2006/12, CDV:2007/6, FDIS:2007/9, IS:2007/12 とすることで合意した。

(3)60747-7(Bipolar Transistor)の追加提案に対する審議

2005.11 東京会議でドイツから提案あった抵抗内蔵トランダスタに関し、日本案(Tentative)を提出しこれを審議した。 (4)JEC で規格作成中のパワーモジュールの紹介

元コンベナの竹内氏に作成頂いた IEC 規格(60747-15Ed.1),JEC 作成中の規格の比較表を用いて現在どのような作業を行っているか紹介した。

(5)60747-15Ed.2(Isolated power semiconductor devices)の作業について

PL を Dr.Wintrich(ドイツ)にお願いした。また、上記で紹介した JEC 規格を Ed.2 で参考にしてもらうため、JEC 規格が完成した後英訳を Dr.Wintrich に送付することにした(英訳については JEC に依頼予定)。

(6) Future Strategy について

当面関心があるのはパワーIC。但し、担当はどこがやるべきがが明確ではなく、前回から宿題となっている。 コンベナが関係者に問合せる。他の項目は、どこかの国から提案がないと具体的に進まない。当面は様子見。 (7)次回開催予定

SC47E(&WG3): 2006/10 ロンドン WG3: 2006/4 欧州

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

IEC 活動推進委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 標準化センター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11((三井住友海上別館ビル) Tel:03-3518-6435 Fax:03-3295-8727

(事務局記入) 様式 4

提出日: 2006年2月22日

# IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 玉田正信 報告書作成者氏名: 堀 和行 (会社名)ソニー(株)

会議名(半角)	区分		組織番	CISPR SC-I (半角)	
CISPR I WG1	□TC □SC □TA ⊠WG □PT	□その他	(TC/SC/TA)	CIOI IX GO I (+A)	
CISPR I WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☑WG ☐PT	□その他	名 称	受信機、AV 関連機器、マルチ	
CISPR I WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	メディア機器等に関する EMC	
CISPR I WG4	□TC □SC □TA ☑WG □PT	□その他	□単独	開催	
開催期日	2006年1月30日 ~ 2006年2月3日				
開催場所	(国名)アメリカ合衆国	(都市名	) サンタフ	I	
チェアマン / コンヘ・ナ	Tzimenakis(WG1),Storrs(WG2),	幹事国	日本		
	Devies(WG4)				
参加国及び参加人数	24 ヶ国、主な国名 英国、米国、仏国、独国、韓国、参加人数(30)				
日 本 人	[ :補助対象者・・・ (例): 電子太郎(JEITA電子)]				
出席者名(会社名)	雨宮 不二雄/NTTアドバンストテクノロジ(株)、秋山 佳春/NTT環境エネルギー研究所、羽田 隆晴/(財)				
	日本品質保証機構、長部 邦廣 / (株) VLAC、山口 高 / 日本 IBM、 堀 和行 / ソニー(株)、 千代島 敏夫				
	/ (株)PFU、田上 雅照/富士通(株)				

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

背景 : 昨年 10月の CapeTown(南アフリカ)にて開催された CISPR 総会で継続となった検討事項を、今回サンタフェにて審議した。

目的: WG1 は、受信機、AV 関連機器のエミッション規格 CISPR13、イミュニティ規格 CISPR20 を担当している。WG2 は、マルチメディアエミッション規格 CISPR32 の検討をしている。今回、これまでの会議で集約した規格案のCD 文書のための最終審議がされた。WG4 は、マルチメディアイミュニティ規格 CISPR35 の検討をしている。今回は、これまでの会議で集約した規格案の DC 文書のための最終審議がされた。

成果:WG1 では、SC-I 関連文書の審議され、適合確認試験にスペクトラムアナライザを使用しないこと、実効値平均値検波器の使用に関しラウンドロビンテストを行うこと、測定器の不確からしさを報告書に記載することが了承された。WG2/WG4 で検討中のマルチメディア規格について、WG1 として今後もさらに積極的に参画するよう要請された。CIS/I/178/CDV(CISPR20 試験条件の明確化とパッシブ法による遮蔽効果測定提案)については、最終的には持ち帰り検討するが、日本から意見なしで賛成投票することを表明した。CISPR20 のストリップライン法と IEC61000-4-3の相関については、12dB の限度値の緩和は提案しないことが確認された。但し、CISPR20 における大型機器の FAR測定について、新 TF にてラウンドロビンテストを行い、測定法の問題点を解決することになった。

WG2 では、エミッション規格を 1 つにするか、3 つの構成とするか審議されたが、最終的には CD の早期回付を優先し、1 つにすることが決定した。CISPR13 と CISPR22 の定義の相違を修正し、整合する決定がされた。新規項目の RF ポートの伝導妨害限度値は、under consideratation となった。CISPR20 で規定される RF ポートの遮蔽効果測定は、Annex F として追加されることになった。Annex C の動作条件は大幅に簡素化された。3 月に CD 回付され、6 月末コメント締切とすることが決定された。

WG4 では、判定基準について、日本から提案した個別機能 Annex と、代表機能をまとめた表の 2 本立てにすることが決定した。 9 月の東京会議のアクション事項である IEC61000-4 シリーズの最新版の内容と CISRP35 への適用提案が審議された。JEITA-MIDI グループからの Musical Tone Generating Function に関する提案をし、コメントがついたが持ち帰り検討し、DC 文書作成までに再度提案する。放送受信機能については、ディファレンシャル In-Band 試験は採用せず、コモンモードのみ適用する。また放送受信周波数、IF 等の特定周波数には妨害を印加しないという提案がされた。 2 月末までにコンビナーが最終 DC 案を作成し、 3 月中旬に DC として正式配布する。 3 ヶ月間コメントを募集し 6 月中旬に締切ることが決定された。 WG2、WG4 の次回開催は、 8 月 8-11 日にバンクーバー(USA)を予定。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]にTC/SC/TA担当委員経由で、IEC活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
  - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
  - 3.WG がTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG 会議内容はTC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
  - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
  - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「IEC 活動推進委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。